J'espère
一般社団法人ジェスペール
～被災地のママと赤ちゃんに笑顔を～

被災地の妊産婦さんとみなさんをつなぐ

東北こそだてレター（被災地の今・・・）

2016/03/18 配信 vol.38

～ こそだてシップの母子支援にかける情熱とパワーの源 ～

◆ 支援実績

＜支援母子数＞
・ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ開始より累計　21,253 組（2012/7～2016/02）
＜活動場所＞
・岩手（大船渡、陸前高田、花巻、釜石、大槌、遠野、宮古、久慈）
・宮城（石巻、東松島、女川、気仙沼、亘理、名取、仙台）
・福島（いわき、相馬、南相馬）
・福島（伊達、二本松、須賀川、白河、郡山、猪苗代町）
・新潟（長岡）
・埼玉（川越）・神奈川（横浜）・東京（中野）
＜活動内容＞
育児相談会／茶話会／ベビーマッサージ／ベビー体操/
ママのリフレッシュ体操／親子ビクス／仮設巡回訪問

みなさま、こんにちは。　一般社団法人ジェスペールです。

3 月 11 日が過ぎて、震災から 5 年が経ちましたね。日本に住む人は皆、この日は色々なことを考えられたのではないかと思います。

さて、今回も NPO 法人こそだてシップに関する情報を何点かご覧いただきます。

また、2 月初旬、代表の宗が、こそだてシップの活動の支援で赤ちゃん訪問と講演のために岩手県の大船渡・陸前高田に行きましたので、そのご報告をご覧いただきます。

被災地での「これから」と「今」、そして「未来」。どうぞ最後まで、ご覧ください。

◆ こそだてシップが住友生命の震災復興応援特別賞を受賞
http://www.sumitomolife.co.jp/about/csr/community/mirai_child/child/2014/

このたび、特定非営利活動法人こそだてシップ（代表 伊藤怜子助産師）が、住友生命の「未来を強くする子育てプロジェクト」の「スミセイ震災復興応援特別賞」を受賞しました。

『妊婦や乳幼児とその保護者を対象に、助産師が参加して、安全、安心な育児を支援』『被災地のまちづくりの一助となる活動を展開』してきたことが評価されての受賞です。

賞状
未来を強くする子育てプロジェクト
子育て支援活動の表彰
スミセイ震災復興応援特別賞
特定非営利活動法人
こそだてシップ　殿
貴団体が応募されました活動は
優れた内容であり厳正なる審査の
結果頭書の成績を収められました
その栄誉を称えるとともに副賞を
贈呈しここに表彰いたします
平成二十八年二月二十二日
住友生命保険相互会社
取締役
代表執行役社長
橋本雅博

前回のメルマガでも触れましたが、伊藤助産師は震災直後、大船渡・陸前高田・住田地域 90 ヵ所以上の仮設住宅を訪問しました。

当時は個人情報保護法の壁により、行政は一民間人であった伊藤助産師に新生児や産後女性の居住情報を伝えられませんでした。そのため、伊藤助産師は最初は仮設住宅を歩き回って草の根的に玩具や洗濯物、口コミで母子を探し回りました。その実績から 2 年目からは口コミで紹介してもらえるようになったとのことです。

震災直後から現在に至るまでたゆまず母子支援を続ける姿勢、行政から大船渡市子育て支援センター運営の委託を受けたこと、母子支援を継続するため次のスタッフ育成にも尽力されている姿勢など、伊藤助産師の岩手県沿岸部での貢献はたいへん大きなものです。

Copyright (c) 2012-2015 Jespere, All rights reserved

「未来を強くする子育てプロジェクト」は第６回でジェスペール、第７回ベビースマイル石巻の荒木代表（別団体での受賞）、第８回まんまる、第９回こそだてシップとジェスペール及び関係している団体が受賞しています。

ジェスペール及び関係団体の震災直後からの母子支援活動が、実際に多くの母子を支えることができたこと、加えて社会から必要性を認められたこと、などを今回の受賞は形として示していただきました。

◆ こそだてシップ 第１回『子育てスクール』開催
ジェスペール代表の宗が講演致しました（ジェスペール代表　宗祥子）

先月２月５日に、第１回が開催された『子育てスクール』は、子育て中のお母さん達のさまざまな悩みに応えるような形で連続の講演会が開催される予定です。
ジェスペール代表宗が、第一回に講師としてお話しさせていただきました。

◇◆１つ目のテーマ

離乳食『世界一簡単な赤ちゃんご飯』

まず、代表宗が、お母さん達の悩みの相談のトップにある、離乳食をどう与えるかという悩みにお答えする形で、講演会致しました。参加者には子育て中のお母さんだけではなく、行政から栄養士の方や保健師の方々も参加して下さいました。

多くのお産やお子さん達の成長を見守ってきた助産師の立場から、
離乳食の与え方は、お子さんそれぞれの成長を見て決めていく必要がある事、お子さんの食べる意欲を引き出す与え方をする必要がある事、決して焦らないでゆっくりと進めても大丈夫である事など具体例を挙げながらお話を進めていきました。

また、宗が一昨年出版した『世界一簡単な赤ちゃんご飯』を教材と致しました。そこでは、親が健康的な食事をし、そこから取り分けてあげれば良い事。決して特別に離乳食を別の鍋を使って作る必要は無い事、子供が嫌がる時は無理をして食べさせなくても良い事、食事の量や回数は子供の成長を見ながら決めていけば良い事などをお話ししました。

◇◆２つ目のテーマ

『産後サポーター、ドゥーラになりませんか？』

被災地の中での産後ケアの必要性をお伝えし、東北沿岸被災地からドゥーラを誕生させたいと、産後ケアの必要性、またドゥーラが担う役割をお話し致しました。

被災地では上の世代の親や、祖父母を介護しながら産後の生活も行う、といった過酷な状況も時々みられます。介護や子育ては家族だけで担うものといった意識もまだまだ強い地域です。どんどん過疎化してくる地域の中で、子育てをしっかり社会がサポートし担わなければ、人口が減っていってしまいます。
東北沿岸部で、赤ちゃんを産み子育てをしようとしている若いお母さん方を、しっかり支えることが、地域の活性化につながる事をお話ししました。

そこで大いに活躍することができるのが、ドゥーラです。
具体的にお母さんが困っている時に、家事や育児をサポートし、お母さんに寄り添い、子育てを支えていく。そんな役割が家族だけではなく、地域の中で、もし可能なら行政として取り組むことができれば、どんなに子育てがしやすいものになることでしょう。

この地域では、まだまだ仮設住宅の中で妊娠、出産、子育てをなさっている方がいらっしゃいます。子育てが困難だと感じている部分を一つ一つ乗り越えサポートしていける地域になってほしい。そんな願いでドゥーラの必要性をお話ししました。行政からの関心も強く、今後行政の方々にこのテーマでお話をすることも決定致しました。

震災直後に数名の助産師が中心になって始まった子育て支援が、大きく行政も巻き込み発展していっています。
今後もジェスペールは様々な形で、側面援助をしていきたいと考えています。

Copyright (c) 2012-2015 Jespere, All rights reserved

◆ プロジェクト応援のお願い

ジェスペールの「東北こそだてプロジェクト」は、被災地の母子を支援する助産師の活動を支援しています。

皆様からいただいた温かいご支援は活動の原動力となっています。

被災地の母子を今後も継続してサポートしていくため、妊産婦支援に関するお志を同じくするお知り合いの方がいらっしゃいましたら、ぜひ下記サイトをご紹介ください。
http://tohokumama.org/donation/

また、皆様からの励ましのお声も、現地の助産師や被災地で子育て中のお母さん、ジェスペールメンバーの力になります。
ご寄付いただく際に励ましのお言葉を添えていただいたり、当メールマガジンへのご感想などをお寄せください。

発行者： 一般社団法人ジェスペール

公式ホームページ：http://tohokumama.org/　**お問い合わせ先：**info@tohokumama.org
Twitter: https://twitter.com/tohokumama　**Facebook:** http://www.facebook.com/tohokumama

子供や赤ちゃんのイラストわんパグ

Copyright (c) 2012-2015 Jespere, All rights reserved